



6月 園だより

令和4年6月

段原みみょう保育園



人が好きって素晴らしい!

ある日の午前中の園庭、年長すみれ組のあそびを見てみると、砂場では、大きな山にトンネルを掘り、そこに雨どいもつけて水が流れる仕組みを作り、別の場所では、鍋やボウルに雑草や砂、水をたっぷり入れ、念入りにかき混ぜて「魔法のドリンク」づくりをしたりなど、どの場所も、気の合う友だちと対話をしながら、夢中になって遊んでいます。そこに年中ひまわり組の子やもっと小さい1歳児うさぎ組の子どもたちもやってきて、あそびを真似

始めました。ごくあたり前のように異年齢が交わる空間となり、年長組の子どもたちは、小さい子が作っているものを壊してしまっても、何事もなかったかのようにまた作りなおしています。(もう、仕方ないな。ぐらいいは思ったでしょうが…)なんて寛大なんでしょう。きっとこのすみれ組の子どもたちも、小さい時から、お兄さんお姉さんがやっているそばにいき、見て真似てということを経験してきたのでしょう。だからこそ、自分たちが園で一番大きなお兄さんお姉さんになった今、自然に小さな子どもたちを受け入れ、一緒の場を共有できるのだと思います。段原みみょうの子どもたちは様々な人たちと触れ合います。そして色んなあそびを経験する中で考える力や想像力が育ち、人の気持ちも考えられるようになっていきます。今日もそして将来も求められ続ける「コミュニケーション能力」は、幼少期の人との関わりが基礎となるのです。

先ほどの園庭あそびに話は戻ります。この日、4・5歳児は、いつもに増してあそびが盛り上がり、それを中断して室内に戻るには、本当にもったいない、きっと不完全燃焼になるだろうということで、子どもたちが充分満足、納得いくまで遊ばせようということになりました。(給食を食べる12時頃をめぐり室内には戻るということを前提に…)とはいえ、室内あそびが好きな子どもたちもいますので、その子どもたちは早めに部屋に戻りました。

しばらくすると、幼稚園の子どもたちが外に出てきました。私たち保育者は、「大勢の幼稚園児に圧倒され、人見知りもするだろうな。そして、あそびを途中でやめて部屋に帰りたいと言うだろうな。」と予想をしましたが、なんと自然と交ざって遊んでいるではありませんか。物おじせず、幼稚園の先生にも、人懐こく話しかけていく子もいます。なんてかわいらしい姿、愛おしさが溢れる瞬間でした。納得いくまで遊んだ子どもたちは、身の回りのことをてきぱきとこなし、給食のテーブルへ着いていました。心が満たされれば、生活面での様子にも変化があるようです。

先月の園だよりでは、街なかであっても、比治山の自然に恩恵を受けていることのありがたさを述べました。段原みみょう保育園は、全国でも珍しい幼稚園と保育園が合築の園舎です。クラスの友だちほど濃い仲ではないにしろ、合築ということで、「楽しいあそび=学び」を共有できる大勢の仲間がいるこの環境と日常にも改めて感謝したいなと思いました。

段原みみょうの子どもたちは、きっと人が大好きな子どもたちになることでしょう。

園長